

〈授業改善推進プラン 令和5年度第3学年 社会科〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題

【結果から】

- ・全国平均 54.5%に対して、校内正答率 59.1%と上回っている。昨年度が、全国平均を 4.4%下回っていたので、改善が見られる。
- ・「活用」が全国平均 46.5%に対して、校内正答率が 47.5%とほぼ同程度であり、観点別では「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」が、全国平均と比べてやや上回る程度であるため、習得した知識・技能を活用すること、社会科で学んだことを活かして社会をよりよくしていこうとする態度で課題があると考えられる。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容

- ・予習や復習の仕方を改めて指導したり、単元ごとに確認テストを行ったりして、基礎・基本的な用語が定着するようにする。
- ・授業の中で、考えたり調べたりする時間を設け、知識や技能を活用する練習を行う。
- ・ニュースや新聞のレポートを定期的に宿題にすることで、社会の出来事への興味・関心を高める。

(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等

- ・単元ごとに小テストを実施して、社会の基礎的な用語の定着を図っている。
- ・独自のワークシートを作成し、自ら調べて学ぶ機会を設けている。
- ・プレゼンテーションソフトや動画を活用して、興味関心が高まるようにしている。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①ワークシートに活用問題を探り入れ、自分の考えをまとめたり、発表したりする機会を増やす。
- ②公民的分野の学習で、よりよい社会の実現への意欲を高めるために、自分の意見を発表したり、話し合ったりする機会を増やす。

＜検証方法＞

- ①2学期の評価で、「思考・判断・表現」でAまたはBが付く生徒が70%を超えるかどうかで検証する。
- ②2学期の授業アンケートで、授業を「楽しい」と感じる生徒が90%を超えるかどうかで検証する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第3学年 数学科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・村学力調査において、「証明」では全国平均 20.5%に対して校内の正答率 5.6%、「データの分布の傾向」では全国平均 31.9%に対して校内の正答率 16.7%と大きく下回っている。

【課題】

- ・証明やデータの活用における基礎基本の学習内容の徹底。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容

- ・基本的な知識や技能の向上のため、宿題や小テスト等により反復練習を行う。
- ・根拠となる事柄を明確にして、それらを伝えられるようにする。
- ・既習事項を活用し、生徒が自ら考えて、自力で解決できるような課題を多く取り入れる。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・基礎基本の計算を身に付けるために、課題等で演習を繰り返す。その後、計算問題のみの小テストを実施する。
- ・証明の基本の書き方を確認し、根拠となる事柄を明確に書けるように指導する。
- ・既習の学習内容の復習の時間を授業内で取り、基礎基本の徹底を図る。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①プリント課題で演習を繰り返した上で、計算コンテストを実施する。80点以上を合格とし、合格者には簡易的な賞状を作成。
- ②図形の相似の学習において、証明の基本の書き方を復習する。

＜検証方法＞

- ①9～10月ごろを目処に2次方程式の計算コンテストを実施し、合格率60%を達成する。
- ②該当する章の章末テストの証明問題で平均正答率50%を達成する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第3学年 音楽科〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題

アンケートでは、「授業を受けることが楽しいと感じる」、「活動に積極的に参加できている」という項目において、共に肯定的意見が80%に留まった。20%の否定的意見の理由は、「好きじゃないから」「苦手だから」「吹奏楽なら(よい)」等が挙げられた。歌唱分野への苦手意識については、平時の様子からも窺える。一方で、器楽分野においては、下級生に優しく教えたり、同級生同士でもお互いに励まし合ったりしながら練習する様子が見られた。

【課題】 進んで取り組む意欲と、自信をもって音楽表現ができる力。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容

【授業改善策】

- (1) インターネットサイトを使った読譜練習と運指練習を、自分のペースで主体的に進める。
- (2) 振り返りを次の練習に生かし、積み重ねを意識させる。
- (3) 自分のパート音源を個別に聴きながら練習し、楽譜を読む、楽器で音を出す、音を聴いて確かめる、の3段階を生徒自身で進められるようにする。

(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等

【異学年交流の実施】3学年のみで練習を実施した後、全学年合同の授業を実施する(器楽分野)。最上級生として、「教える・まとめる」ことを意識し、責任感をもって活動に取り組めるようにする。リーダー等の役職に就いている生徒も少なくないため、成功体験を多く積ませるような場面を設定し、「自信をもつことができる」授業を目指す。

【ICT機器の導入】本年度5月より、音楽室にモニター画面を設置した。実際に教師がお手本をして見せることの他に、視覚的な情報を積極的に与え、演奏のイメージをもてるようにする。また、2学期以降、各パート、各楽器の“お手本動画”をクラスルームに投稿し、生徒の学習端末から1人1人が視覚と聴覚を使って目標となる演奏を把握できるようにする。演奏の様子を撮影し、課題を見つけ、自分たちで練習計画を立てられるようにする。ICT機器の導入で、生徒自身が「演奏で表現できる」授業を目指す。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①目で「奏法や運指」を、耳で「音」を確認し、自分の練習や取り組み状況に自信をもてるようにする。
- ②リーダーを中心として、自分たちで課題を見つけ、目標を達成する喜びを感じられるようにする。

＜検証方法＞

- ①必要に応じて ICT 機器を活用できる環境を整え、生徒が目指す表現に繋げられるようにする。
- ②各リーダーに対して具体的な目標や、取り組みの方法を記載したシートを配布し、生徒たちで練習できるようにする。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第3学年 美術科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現活動に対するモチベーションが上がらない生徒がいること。 ・毎時間やっている振り返りを制作にうまく反映させることができていない。 ・時間をかけて何度も塗り重ね、完成度を上げていくことの良さを伝えきれていない。 <p>「制作などの活動に積極的に参加できている」という項目で90%が肯定的意見であるが、「意欲的」の意味合いをもっと伝えていく必要性があると感じたため。</p>			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>時間をかけると良い作品はできる。考えて工夫をすることもできる。しかし、与えられた時間の中で完成させていくことも必要である。生徒によって、作業にかかる時間に幅があるのが現実で、その放課後等のフォローの在り方を考える。また、授業時間を有効に使うということも、大前提として考えていく。</p> <p>【授業改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テストで点数を取ることができないことを気にしている生徒が多い。きちんと学習したら点数がとれるよう、授業できちんと指導する。 ・きちんとしている生徒が多いので、これから自分で考え決定していく課題になってくると、迷いが生まれてくることも考えられる。基礎的な課題の時点で、自ら考えて決定していく指導を心がける。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真資料の提示を多くして、表現を感覚的に捉えることができるようにしている。 ・日常的に生徒の都合に合わせた補習を開講して、もっと作業がやりたい生徒のフォローをする。 ・テスト前にも補習を行い、その学期の復習をして、生徒の得点力を高めるためのフォローをする。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width:100%"> <tr> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①個別指導を充実させ、それぞれの困難を理解する。 ②振り返りをデジタル化し、制作と関連付ける。 ③描き込むことで良くなった作品を取り上げて紹介する。 </td> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①作品への現れ方を見る。 ②作品への現れ方を見る。 ③作品への現れ方を見る。 </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①個別指導を充実させ、それぞれの困難を理解する。 ②振り返りをデジタル化し、制作と関連付ける。 ③描き込むことで良くなった作品を取り上げて紹介する。 	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①作品への現れ方を見る。 ②作品への現れ方を見る。 ③作品への現れ方を見る。
<p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①個別指導を充実させ、それぞれの困難を理解する。 ②振り返りをデジタル化し、制作と関連付ける。 ③描き込むことで良くなった作品を取り上げて紹介する。 	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①作品への現れ方を見る。 ②作品への現れ方を見る。 ③作品への現れ方を見る。 		
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p><成果></p> <p><課題></p>	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 		
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】</p>			

〈授業改善推進プラン 令和5年度第3学年 英語科〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題

- ・ 村の学力調査では全国平均を上回り、大変良好な状況だった。
- ・ 領域では「聞くこと」が正答率 73.9%と全国平均 59.5%よりも非常に高い値を示した。また、「語彙の知識・理解」でも正答率 88.2%と全国平均 68.7%に対して非常に高い値を示した。一方で、「語形・語法の知識・理解」の項目では全国平均 63.9%に対して正答率 58.8%と低い値となった。
- ・ 「聞くこと」の領域では標準スコアが一昨年度 54.1、昨年度 51.5、今年度 55.2 ともち返した。「書くこと」においては一昨年度 51.8、昨年度 52.4、今年度 52.5 と上昇が見られた。「読むこと」においては一昨年度 55.3、昨年度 49.1、今年度 50.5 と更なる改善が期待される。
- ・ 以上のことから「語彙の知識・理解」はあるものの実際の文章の中で使われる英語に関しては「語形・語法の知識・理解」が不十分で「読むこと」に関して課題があると考えられる。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容

- ・ 該当生徒が中学1年生だった令和3年度授業改善推進プランには「語彙や文法についても、数回程度の繰り返しで終わるのではなく、繰り返し学習する頻度を上げ、習得が求められる。」との記載がある。

(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等

- ・ 語彙の導入においては、意味だけにとどまらず例文を交えた語形の変化や語法についても解説を行っている。また、生徒が自主的に行っている家庭学習では多くの生徒が単語の意味のみに注目して学習しているため、使い方に着目し、例文を作成するように指導している。また、オンライン翻訳サイトを用いて本文理解をする生徒が散見されたが概要を自力で捉えられるように本文の導入を段階的に行う工夫をしている。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ① 語形変化の多い動詞を中心に語法の習得にまで結びつくように例文作成を課題として行う。
- ② 初見の英文を読む回数を増やし、分からない表現があっても概要をつかめるようにしていく。

＜検証方法＞

- ① 文法事項の確認の際には既習語を用いた例文作成を行い、語形・語法の知識と理解を確認する。
- ② 小テストや考査で初見の文章を出すことで検証を行う。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

- ・
- ・

6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】